令和 8 年度(2026 年度)

愛知医科大学

歯科医師臨床研修プログラム

愛知医科大学　歯科医師臨床研修プログラム

【臨床研修施設の概要】
管理型臨床研修施設
　施設名　　愛知医科大学病院
　所在地　　愛知県長久手市岩作雁又1番地1

【研修歯科医　募集定員・募集方法】
　募集定員　3 名
　募集方法　歯科医師臨床研修マッチング協議会が実施する歯科医師臨床研修マッチングにより公募する。ただし、マッチング終了後の定数に空きがある場合は別途募集を行う。

【研修期間】　2 年研修
　愛知医科大学歯科医師臨床研修プログラムは、2 年間の管理型臨床研修（一般歯科・口腔外科基礎養成コース）であり、2 年研修終了時に、到達目標に達した研修歯科医に臨床研修修了証を交付する。
協力型（II）臨床研修施設での研修および、愛知医科大学病院：麻酔科・救命救急科・形成外科での研修が必須である。

【研修プログラムの目的および特色】
目的：
　全身的観点から口腔疾患の診断および治療に関する知識と技術を実地に体得し、医倫理を修めることを目的とする。
（1）本歯科医師臨床研修プログラムは、指導責任者（口腔外科指導医、一般歯科指導医を含む助教以上）のもとに、全身的病態との関連や治療時の必要知識と治療方針および実際の治療時の留意点を修得するようにする。
（2）一般的な歯科疾患および口腔外科疾患の診断、治療計画の立案および実際の治療の修得（一般歯科治療では担当医となる）を目指す。
（3）歯科患者の全身管理・麻酔管理に関する知識と技能の修得を目指す。
（4）関連する他科疾患の診断については、他科との対診および連携を密にして研修成果をあげるようにする。実地に際しては、先の指導責任者および助教以上の医師が実際の指導にあたるが、国家資格をもった 1 人の歯科医師としての自覚を持ち、積極的に勉強し、自ら考え、他の歯科医師や医師と討議、連携し、多面的観点から患者や病態を見て適切な治療方針および治療が行えるよう努めること。

特色：

医科大学病院歯科口腔外科における歯科医師臨床研修プログラムであることから、口腔外科疾患にとどまらず、医科入院患者および有病者の歯科治療も手がけている。口腔外科では多様な疾患を経験できる特色がある。外来での口腔外科では埋伏歯、小嚢胞、歯根端切除、炎症、良性腫瘍、小帯切除、歯科インプラントなどの手術や顎関節症に対する治療が行われている。入院では埋伏歯、顎骨嚢胞、外傷、悪性腫瘍、顎変形症、唇顎口蓋裂などの全身麻酔手術（2023 年：338 例）が多数実施されている。また、外来診療では有病者の歯科治療や睡眠時無呼吸に対する口腔内装置治療（OA 治療）、顎関節症のスプリント治療も多く行われる。（令和 5 年度：外来患者数：1日平均 112.3 人、入院患者数：1日平均 13.4 人）

研修 2 年時には、全身管理および麻酔管理に関する知識と技能を身につけるため、麻酔科研修 3 か月、救命救急科研修 1 か月および、形成外科での 2 週間の研修を必須としている。また、当科は日本口腔外科学会認定研修施設、日本顎顔面インプラント学会認定研修施設、日本口腔科学会認定研修施設であり、各学会の認定医、専門医の取得が可能である。また、本プログラムでは医科研修医と一緒に卒後臨床研修センター管理下で研修が行われ、医科研修医のために行われる研修センター企画の各種研修行事（オリエンテーション、セミナーなど）にも参加することができる。

以上より、一般歯科治療の技量と幅広い歯科関連知識の修得とともに全身状態の把握に要する医科知識と状況に応じた対処法の修得が可能であることが本プログラムの特色である。

研修修了後は、当科における歯科口腔外科後期研修プログラムへの進学や希望者は試験後に大学院へ入学することが可能である。

【プログラム責任者および指導歯科医】

（1）　プログラム責任者

古橋明文　准教授（特任）
臨床研修指導歯科医・プログラム責任者講習会修了
日本口腔外科学会認定医・専門医・指導医
日本口腔科学会認定医・指導医
日本顎変形症学会認定医
日本睡眠学会歯科専門医
日本睡眠歯科学会認定医・指導医

(2)　副プログラム責任者

林富雄　講師

臨床研修指導歯科医・プログラム責任者講習会修了
日本口腔外科学会認定医
日本口腔科学会認定医
インフェクションコントロールドクター
抗菌化学療法認定歯科医

(3)　指導歯科医

各務秀明　教授（特任）

臨床研修指導歯科医
日本口腔外科学会専門医・指導医
日本口腔科学会認定医
日本顎顔面インプラント学会指導医
日本口腔インプラント学会専門医・指導医
日本再生医療学会認定医

近藤さゆり　医員助教　臨床研修指導歯科医

日本口腔外科学会認定医、
日本口腔科学会認定医

山中怜実　医員助教　臨床研修指導歯科医

日本口腔外科学会認定医
日本口腔科学会認定医

加藤三香子　医員助教　臨床研修指導歯科医

日本口腔外科学会認定医
日本口腔科学会認定医
日本睡眠歯科学会認定医

(4)　指導補佐歯科医

西尾未守（医員助教）・岩田侑真（医員助教）・髙田浩司（専修医）
竹中勇斗（専修医）・石川貴啓（専修医）・大下佳織（専修医）

【協力型(II)臨床研修施設】
小島歯科医院
研修内容:歯科治療全般、障害者治療、小児歯科
医療法人十種会丸子歯科
研修内容:歯科治療全般、矯正、インプラント、小児歯科、予防歯科
いけもり矯正歯科
研修内容:一般矯正、外科矯正治療
東山デンタルクリニック
研修内容:歯科治療全般、歯周治療、小児歯科、小児矯正・矯正治療

上記 4 施設について、1施設につき 1 週間の研修を行う。3 施設で計 3 週間の研修を研修1年時に行う。

【処遇】
(1)手当　1 年目　287,300 円／月　2 年目　296,378 円／月　※ 別途賞与を支給
その他、超過勤務手当、呼出手当、延長手術手当などに応じて支給する手当等
(2)社会保険など
健康保険・年金は日本私立学校振興・共済事業団に加入
労災保険および雇用保険適用
(3)勤務時間
勤務時間、勤務時間の割り振り、休憩時間、育児時間、勤務を要しない日、時間外勤務等については職員の例による。
(4)出勤
出勤・欠勤・遅刻・早退・外出・年次有給休暇・特別休暇・病気休暇・職免休暇・休暇等の届出については職員の例による。
(5)休日
土曜日、日曜日、祝日および年末年始(12／29～1／3)
(6)休暇
年次有給休暇(採用時付与日数:12 日、最大 20 日)
リフレッシュ休暇(採用時付与日数:5 日、最大 6 日)
その他、慶弔等の事由により取得できる特別休暇(最長 10 日)、病気休暇等
職免休暇　学会出張等
(7)常勤・非常勤の別　常勤
(8)研修歯科医のための病院内の部屋:1 室(卒後臨床研修センター)

【当直】

歯科口腔外科での副宅直業務に従事する。
麻酔科および救命救急科研修時に当直あり業務に従事する。

【その他】
宿舎　なし
食堂　院内食堂（有料）あり
健康管理　定期健康診断の実施、各種感染症抗体検査およびワクチン接種等
賠償責任保険　歯科医師賠償責任保険：各自加入。
ただし有事の際は当院加入の保険を適用する。
院内研修会　：研修センター企画の各種セミナー、各科主催の症例検討会など
学会　：参加自由（費用は個人負担）

【研修内容と到達目標】
（1）研修指導体制
歯科口腔外科臨床研修は、指導責任者、指導歯科医が指導に従事する。指導補佐歯科医は指導歯科医を援助する。研修歯科医は入院診療および外来診療において指導歯科医のもと全身的病態との関連や治療時の必要知識を修得し、治療方針の立案および治療の実地を行う。
また、休日診療、当直および宅直において、当番医の指導のもと副直医として時間外診療を研修する。臨床経験症例はその都度、指導責任者または指導歯科医に診療内容の確認を受けカルテ記載事項の承認を受けるとともに歯科治療（補綴、保存症例）の担当になった場合には症例経験用紙に記入する。さらに各研修項目の到達評価欄に例数を記入し症例経験用紙とともに１か月毎に指導歯科医に提出する。指導歯科医は適時、研修に関する相談を受け、臨床指導、口頭試問、助言を行い、必要時にはレポートのテーマを呈示するとともに１か月間の評価をし、次の１か月間の研修に関する助言、指導を行う。なお、当科では２年の研修期間であることから１年次の到達目標は努力目標であり、最終的には２年次終了までに到達することを目標とする。

（2）一般歯科口腔外科基礎養成コース
歯科口腔外科での研修実施
① 外来診療（月～金曜日）
② 病棟診療（毎日）
③ 全身麻酔手術（木曜日、金曜日）
④ 宅・当直（当番医のもと副宅直医として従事）
⑤ 教授回診

⑥ 抄読会・症例検討会（木曜日）
⑦ 病棟カンファレンス（月曜日）
⑧ 外来小手術（月～金曜日）
⑨ 講義、講演、学会
⑩ 臨床医学セミナー
⑪ 自己学習・自己啓発

(3)研修の具体的な内容
① 適切な問診による病歴聴取
② カルテ記載
③ 各種器具，機械の取り扱いの修得
④ 一般歯科疾患の診断、診療計画の作成および説明と同意、治療
⑤ 有病者歯科診療の注意点修得と診断および治療方針立案と説明と同意、治療
⑥ 口腔外科疾患の診断、診療計画の作成
⑦ 外来小手術の実施（普通抜歯、埋伏抜歯、膿瘍切開、小帯異常、嚢胞、歯の脱臼、歯槽骨骨折は説明と同意、治療、経過観察まで）
⑧ 単純 X 線、断層 X 線写真、CT、MRI、PET-CT の読影
⑨ 一般血液検査の解釈
⑩ 協力型（II）臨床研修施設での総合的歯科診療や矯正治療を見学・体験する。
⑪ 麻酔科・救命救急研修をにおいて、全身管理・麻酔管理・生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態に対応出来る知識・技能を修得する。
⑫ 形成外科研修で整容的知識・技術を見学・体験する。

【到達目標】

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）を身につける。

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与
社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。
2. 利他的な態度
患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する
3. 人間性の尊重
患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を

持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力を身につける。

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学および医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

8. 科学的探究

医学および医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学および医療の発展に寄与する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C.基本的診療業務を身につける

1. 基本的診療能力等

⑴基本的診察・検査・診断・診療計画

①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
（GIO:1-1）

②全身状態を考慮した上で、顎顔面および口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。（GIO:2-1）

③診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
（GIO:2-2）、（GIO:3-2）

④病歴聴取、診察所見および検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
（GIO:2-3）

⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
（GIO:2-4）

⑥必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者および家族の意思決定を確認する。
（GIO:1-6）

⑵基本的臨床技能等

①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
（GIO:2-1）、（GIO:2-2）、（GIO:2-3）

②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。（GIO:2-1）、（GIO:2-2）、（GIO:2-3）、（GIO:2-4）、（GIO:2-5）

a.歯の硬組織疾患
b.歯髄疾患
c.歯周病
d.口腔外科疾患
e.歯質と歯の欠損
f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下

③基本的な応急処置を実践する。（GIO:5-1）

④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。（GIO:4-1）、（GIO:5-1）

⑤診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。（GIO:1-6）

⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
（GIO:1-4）、（GIO:1-7）

⑶患者管理

①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。（GIO:1-1）
②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。（GIO:1-2）
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。（GIO:1-6）、（GIO:2-5）
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。（GIO:2-4）
⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理および療養上の管理を実践する。（GIO:3-5）

(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。（GIO:1-6）
②各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。（GIO:1-6）
③障害を有する患者への対応を実践する。（GIO:1-6）

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1)歯科専門職間の連携（GIO:1-2）
①歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
②歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
③多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2)多職種連携、地域医療（GIO:1-2）
①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
③がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
④歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的および各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

⑤入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。

(3)地域保健（GIO:1-7）

①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。

②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

(4)歯科医療提供に関連する制度の理解（GIO:1-7）

①医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

②医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

③介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

愛知医科大学病院　歯科医師臨床研修プログラム（令和８年度）

ＧＩＯ（一般目標）とＳＢＯｓ（行動目標）

①　ＧＩＯ（一般目標）⇒各ユニット
②　各ユニット下にＳＢＯｓ（行動目標）が設定される。
ＳＢＯｓの行動目標群には次の３領域がある。⇒　知識　技能　態度・習慣

③　各々のＳＢＯs（行動目標）に対して学習方略（ＬＳ）がある。
ＬＳ種類：（１）印刷物、（２）黒板、（３）スライド、（４）テレビ、（５）模型、（６）シミュレーター、（７）患者
知識：（１）～（７）
技能：（１）（２）（４）～（７）
態度・習慣：（３）（４）（７）

④　ＳＢＯｓに対して評価（ＥＶ）を行う。
①論述テスト　②口頭試験　③客観テスト　④シミュレーションテスト（１筆記型、２標準模擬患者、３模型、４コンピューター）　⑤実地試験　⑥観察記録　⑦レポート・ポートフォリオ
知識：①～④－１，２，４　⑤～⑦
技能：④－２，３　⑤⑥
態度・習慣：④－２，３，４　⑤⑥⑦

Ⅰ：臨床基礎

ＧＩＯ：1-1 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し，診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略（LS）	形成的評価（EV）
① 病歴聴取・記録が的確に行える。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
② 患者，家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
③ ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄのもとに，患者・家族への適切な指示，指導ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④ 守秘義務を果たし，プライバシーへの配慮ができる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
⑤ 相手に好印象を与えている。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

ＧＩＯ：1-2 チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し，保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
② 上級・同僚医師，他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
③ 医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
④ 患者の転入，転出にあたり情報を交換できる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
⑤ 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
⑥ 病診連携が行える。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

ＧＩＯ：1-3 問題対応能力

患者の問題を把握し，問題対応型の思考を行い，生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し，当該患者への適応を判断できる（ＥＢＭが実践できる）。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
② 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

③　臨床研究や治験の意義を理解し，研究や学会活動に関心を持つ。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
④　自己管理能力を身につけ，生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

ＧＩＯ：1-4 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し，安全管理の方策を身につけ，危機管理に参画する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
①　医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
②　医療事故防止及び事故後の対処について，マニュアルなどに沿って行動できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③　院内感染対策（Standard Precautions を含む）を理解・実施できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④　クリニカルパスを施行できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ：1-5 症例提示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な，症例提示と意見交換を行う。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
①　症例提示と討論ができる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
②　臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集会に参加、発表（１演題以上）する。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

ＧＩＯ：1-6 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ，診療計画を作成し，評価する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
①　診療計画（診断，治療，患者・家族への説明を含む；ＰＯＳシステム)、診療録、手術記録を作成できる。	知	(1～7)	①～④－１，２，4⑤～⑦
②　診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③　入退院の適応を判断できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④　QOL（Quality of Life）を考慮にいれた総合的な管理計画	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦

（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ，社会復帰，在宅医療，介護を含む）へ参画する。

ＧＩＯ：1-7 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し，社会に貢献する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 保健医療法規・制度を理解し，適切に行動できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 医療保険，公費負担医療を理解し，適切に診療できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 医の倫理，生命倫理について理解し，適切に行動できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

Ⅱ：歯科治療

ＧＩＯ：2-1 基本的な歯科疾患の診察法

歯科において基本的な診察法・検査・手技・治療法を経験する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 歯牙、口腔内（歯，歯周組織、舌，口底，頬粘膜，硬口蓋，軟口蓋等）所見をとり記載する。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
② 特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④ 歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
⑤ 歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ：2-2 基本的な歯科臨床検査

口腔，歯牙の病態と臨床経過を把握し，また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき，結果の解釈ができる。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 歯科用Ｘ線検査と読影ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

② パノラマＸ線検査と読影ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 電気歯髄診断、ＥＭＲができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④ 温冷痛検査ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑤ 歯周検査ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑥ スタディモデルの診査ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ：2-3 歯科基本治療診断、治療計画、治療

歯科治療において基本的な診断能力、治療計画の立案能力、治療の技術を修得する。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 保存修復治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 歯周治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 歯内治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④ 補綴治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑤ 歯科治療に必要な麻酔が施行できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

ＧＩＯ：2-4 総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施

１口腔単位で総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① １口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② １口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ １口腔単位で総合的な歯科治療が行える。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

ＧＩＯ：2-5 基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施

基礎疾患に留意した総合的な歯科疾患の診断から治療まで行う。実施症例は保存・補綴症例用紙に記載する

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 基礎疾患の問題点を視野にいれた総合的な歯科診療計画が立案できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

Ⅲ：基礎口腔外科

ＧＩＯ：3-1 口腔外科基本診察法

基本的な口腔外科疾患および身体の診察法を修得する。	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
ＳＢＯｓ：行動目標			
① 口腔内および口腔外科領域の観察ができ，記載ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
② 口腔外科疾患の診断手順が理解でき実践できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③ 口腔外科疾患や手技に関連した局所解剖を理解している。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④ 全身観察（頚部リンパ節の触診を含む）ができ，問題点の記載ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

ＧＩＯ：3-2 口腔外科基本臨床検査

口腔，口腔外科領域の病態と臨床経過を把握し，また全身病態との関連を把握して医療面接と口腔・身体診察から得られた情報をもとに必要な検査の適否を判断でき，結果の解釈ができる。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
① 口腔外科疾患に必要な歯科用Ｘ線検査を選択・実行できる。 （単純Ｘ線検査：ｾﾌｧﾛ、ｼｭﾗｰ、Ｐ－Ａ、ｳｵｰﾀｰｽﾞなど）	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② パノラマＸ線検査で口腔外科疾患を読影できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ ＣＴ検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④ ＭＲＩ検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑤ 細菌学的検査，薬剤感受性検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑥ 細胞診（擦過。穿刺），病理組織検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑦ 血算，白血球分画がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑧ 血液型判定，交叉適合試験がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑨ 心電図がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑩ 動脈血ガス分析がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑪ 血液生化学検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑫ 肺機能検査（スパイロメトリー）がオーダーでき所見を理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

⑬	一般尿検査がオーダーでき所見を理解できる。	知	（1～7）	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑭	PET 検査、Ｇａ・骨シンチグラムがオーダーでき所見を理解できる。	知	（1～7）	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ：3-3 基本的な口腔外科疾患の診断と治療計画

普通抜歯、簡単な埋伏、数歯までの炎症、歯・歯槽骨外傷、軟組織外傷、顎骨骨折、小嚢胞、顎関節脱臼、顎関節症の診断から治療まで修得する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 診断の手順から確定診断まで総合的に実施ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
② 治療計画の立案ができ、手術に関する説明と同意が行える。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③ 治療法（必要器具、手技、投薬等）を理解している。	知	（1～7）	①～④-1，２，４⑤～⑦
④ 治療における合併症を理解している。	知	（1～7）	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑤ 合併症に対する対策を理解している。	知	（1～7）	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ：3-4 口腔外科基本手技

口腔外科基本的手技を修得する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
① 口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
② 下顎孔伝達麻酔が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③ 普通抜歯,簡単な埋伏抜歯が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④ 炎症の切開排膿処置が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑤ 顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑥ 口腔内外の縫合法を実施（器具準備を含む）できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑦ 各種止血法を実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑧ 注射（皮内，皮下，筋肉，点滴，静脈確保）が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑨ 採血が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑩ 合併症の対策が施行できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑪ 小嚢胞の手術（粘液嚢胞を含む）ができる。			

ＧＩＯ：３−５基本的な口腔外科疾患の管理法

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
①　基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察と それらの主観的客観的評価が適切にできる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
②　全身の管理、口腔機能の改善，回復 （嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等）ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③　薬物の作用，副作用，相互作用について理解し，薬物療法 （抗菌薬，解熱剤）ができる。	知	（1〜7）	①〜④-1,2,4⑤〜⑦

ＧＩＯ：多くの口腔外科疾患を経験する。

多くの口腔外科疾患の診断、治療、予後観察までを継続的に臨床現場で体験する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
①　見学例、実施経験例を記載する。			
（外来口腔外科疾患症例、入院口腔外科疾患；入院管理や入院手術補佐例等）	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
症例カードに月毎に記載（別紙に記入：記入法は口腔外科専門医症例報告用	知	(1〜7)	①〜④-1,2,4⑤〜⑦
の記入例を参照すること）	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
コメントと評価（ａ〜ｄ）は指導医が行う）			

Ⅳ：麻酔科研修

ＧＩＯ：４−１医科麻酔を経験する。

歯科患者の全身管理・麻酔管理に関する知識と技能を身につける。

３か月の医科麻酔研修を行う。

⇒　麻酔研修は愛知医科大学麻酔科研修カリキュラムに沿って行う。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
①　一般的な術前診察と全身状態評価ができる。	知	(1〜7)	①〜④-1,2,4⑤〜⑦
②　麻酔器の取扱いができる。	知	(1〜7)	①〜④-1,2,4⑤〜⑦
③　麻酔前準備ができる。	知	(1〜7)	①〜④-1,2,4⑤〜⑦
④　末梢静脈確保ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

⑤　気道確保(用手またはエアウェイを用いたもの)ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑥　用手人工換気ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑦　気管吸引ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑧　基本的なモニタリング機器の装着と操作ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑨　モニタリング項目の値の解釈と麻酔中の全身状態の把握ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑩　麻酔後の全身状態の把握ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑪　術後酸素療法ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

Ｖ：救命救急科研修

ＧＩＯ：５－１救命救急科を経験する。

一定期間の臨床経験を積んだ後に、救命救急科で救命救急分野に関連するより高度な研修を行う。救命救急科では、生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態に対して適切でより高度な対応を学ぶ。

⇒　救命救急研修は愛知医科大学救命救急科研修カリキュラムに沿って行う。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
①　バイタルサインのチェック（Japan Coma Scaleによる意識レベルの評価を含む。）ができる。	知、技	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
②　頭頸部・胸部・腹部・四肢の視診、触診ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③　胸部・腹部の聴診ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④　打鍵器などを用いた神経学的診察ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑤　用手気道確保ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑥　経口・経鼻エアウエイの挿入ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑦　BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手人工呼吸ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑧　麻酔器、マスクによる用手人工呼吸ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑨　気管挿管下の用手人工呼吸ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑩　経胸壁用手心臓マッサーシができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑪　AEDによる除細動(VF/脈無しVT）ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑫　末梢静脈路確保ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

⑬	非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、血圧計など）ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑭	動脈・静脈採血ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑮	ACLS の VF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑯	救命救急センター、救急部における救急輸液の実地ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑰	創洗浄、創縫合(歯科口腔外科領域のもの）ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑱	チームカンファレンスへの参加ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

Ⅵ：形成外科研修

ＧＩＯ：6-1 形成外科を経験する。

麻酔研修、救命救急研修後に形成外科での研修を行う。形成外科での研修は創傷の診断から治療、手術の基本、縫合について学ぶ。
⇒研修は形成外科研修カリキュラムに沿って行う。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（ＥＶ）
① 頻度の高い疾患や外傷の診断と治療を理解する。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 顔面を主にした体表面の外傷（挫創、擦過傷など）の処置の仕方（麻酔、消毒、洗浄、縫合など） を修得する。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
③ 基本的な手術器具の名称、使用方法が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
④ 瘢痕の経過と時期に応じた治療法が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑤ ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑥ 顔面のレントゲン写真、CT の読影の仕方、特に骨折の診断法が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑦ 病変、外傷部、術前、術中、術後とその経過の写真撮影方法が実施できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑧ 手術を要する場合、術式の選択や麻酔方法の決定の仕方が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
⑨ 術後のスキンケアーを実践できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑩ 遊離植皮、有茎皮弁、遊離皮弁の手技の違いと長短所が理解できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

Ⅶ：インプラント・顎関節症・睡眠時無呼吸

ＧＩＯ：7-1 インプラントについて理解する。

当科での高頻度治療であるインプラントについて理解する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
① 基本概念と基本的な適応症を理解している。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 模型実習（手術手技）を行う。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④ 手術の補助ができる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥

ＧＩＯ：7-2 顎関節症について理解する。

当科への受診頻度が高い顎関節症の臨床（基本）を理解する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
① 症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② ＭＲＩの撮影条件の指示と読影ができる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ スプリントの制作・調整実習を行う。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
④ スプリント療法を理解し実践できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑤ 関節洗浄療法について理解している。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

ＧＩＯ:7-3 睡眠時無呼吸について理解する。

本院では睡眠医療センターを中心にチームアプローチを行っている。睡眠時無呼吸について理解し、当科の役割を理解する。

ＳＢＯｓ：行動目標	分類	研修方略(LS)	形成的評価（EV）
① 病態と検査法、治療法の基礎を理解している。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
② 病態を把握できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦
③ 他科へのコンサルトができる。	態	(3,4,7)	④－2,3,4⑤⑥⑦
④ OA の作製手順と方法を理解し作成できる。	技	(1,2,4-7)	④-2,3⑤⑥
⑤ 治療効果を評価できる。	知	(1～7)	①～④-1,2,4⑤～⑦

口腔外科疾患 診査・診断症例 報告書

研修医名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ID		生年月日 (診断時年齢)	(　　歳)	男 ・女
初診年月日		診断名		
主訴：				

※ 経過、記録の記載事項が多い場合は、複数ページにしてください。

【現病歴】

【既往歴】

【検査所見】

【診査および診断の経過、患者への説明】

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医 所見

報告書評価： a. 優れている b. 平均を上回っている c. 平均レベルである d. 不十分である

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医	署名 ：

口腔外科 手術症例報告書

研修医名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ID		生年月日 (手術時年齢)	(　　歳)	男 ・女
初診年月日		診断名		
手術年月日		手術名		
担当した手術手技				

※ 経過、記録の記載事項が多い場合は、複数ページにしてください。 必要時、図を記載してください。

【臨床経過】

【検査所見】

【手術記録】

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医 所見

報告書評価: a. 優れている b. 平均を上回っている c. 平均レベルである d. 不十分である

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医	署名 :

口腔外科疾患 入院管理症例 報告書

研修医名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ID		生年月日 (診断時年齢)	(　　歳)	男 ・女
初診年月日		診断名		
入院加療の目的:				

※ 経過、記録の記載事項が多い場合は、複数ページにしてください。

【現病歴】

【既往歴】

【検査所見】

【入院管理経過】

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医 所見

報告書評価: a. 優れている b. 平均を上回っている c. 平均レベルである d. 不十分である

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医	署名 :

愛知医科大学病院 歯科口腔外科 臨床研修

歯科処置(保存修復・補綴) 症例報告書

研修医名:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ID		生年月日 (初診時年齢)	(　　歳)	男 ・女
初診年月日		診断名		
主訴				
歯科処置時の問題点・注意点				

※ 経過、記録の記載事項が多い場合は、必要に応じて複数ページにしてください。

【既往歴】

【現病歴】

【初診時現症・口腔内所見】

【検査所見】

【治療経過】

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医 所見

報告書評価: a. 優れている b. 平均を上回っている c. 平均レベルである d. 不十分である

上級医 あるいは 臨床研修指導歯科医	署名 :

名前

経験症例　　年度

Ⅰ臨床基礎		
1−1医療面接	各5例以上、 合計30例以上	
1−1−1 病歴聴取・記録が的確に行える。		症例
1−1−2患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。		症例
1−1−3インフォームドコンセントのもとに、患者・家族への適切な指示、指導ができる。		症例
1−1−4守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。		症例
1−1−5相手に好印象を与えている。		症例
		合計　　症例
1−2チーム医療	各5例以上、 合計30例以上	
1−2−1指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。		症例
1−2−2上級・同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。		症例
1−2−3医療チームにおける実践的な役割を理解し適した行動がとれる。		症例
1−2−4患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。		症例
1−2−5関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。		症例
1−2−6病診連携が行える。		症例
		合計　　症例
1−3問題対応能力	5症例	

1−3−1臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる（EBMが実践できる）。		症例
1−3−2自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。		症例
1−3−3臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。		症例
1−3−4自己管理能力を身につけ、生涯にわたり知識、基本的診療能力の向上に努める。		症例
		合計　　症例
1−4安全管理	50例以上	
1−4−1医療を行う際の安全確認の考え方を理解・実施できる。		症例
1−4−2医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。		症例
1−4−3院内感染対策(Standard Precautions を含む)を理解・実施できる。		症例
1−4−4クリニカルパスを施行できる。		症例
		合計　　症例
1−5症例提示	1症例以上 （学会発表）	
1−5−1症例提示と討論ができる。		症例
1−5−2臨床・学術に関するカンファレンス・学会・集会に参加、発表する。		症例
		合計　　症例
1−6診療計画	各1例以上、 合計5例以上	

1−6−1診療計画（診断，治療，患者・家族への説明を含む；POSシステム）、診療録、手術記録を作成できる。		症例
1−6−2診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し活用できる。		症例
1−6−3入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）。		症例
1−6−4QOL（Quality of Life）を考慮にいれた総合的な管理計画（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ，社会復帰，在宅医療，介護を含む）へ参画する。		症例
		合計　　症例
1−7医療の社会性	1症例	
1−7−1保健医療法規・制度を理解し，適切に行動できる。		症例
1−7−2医療保険，公費負担医療を理解し，適切に診療できる。		症例
1−7−3医の倫理，生命倫理について理解し，適切に行動できる。		症例
		合計　　症例
Ⅱ歯科治療		
2−1基本的な歯科疾患の診察法	各10例以上 合計50例以上	
2−1−1歯牙、口腔内（歯，歯周組織、舌，口底，頬粘膜，硬口蓋，軟口蓋等）所見をとり記載する。		症例
2−1−2特に全身の観察と歯科治療時に関係のある臨床検査所見を理解できる。		症例
2−1−3歯科治療時の全身的問題点を把握し記載ができる。		症例
2−1−4歯科治療時の全身的問題点に関するコンサルトが関連医科に行える。		症例
2−1−5歯科治療時の局所的問題点の把握・記載ができる。		症例
		合計　　症例
2−2基本的な歯科臨床検査	各5例以上、 合計50例以上	

2−2−1歯科用X線検査と読影ができる。		症例
2−2−2パノラマX線検査と読影ができる。		症例
2−2−3電気歯髄診断、EMRができる。		症例
2−2−4温冷痛検査ができる。		症例
2−2−5歯周検査ができる。		症例
2−2−6スタディモデルの診査ができる。		症例
		合計　　症例
2−3歯科基本治療診断、治療計画、治療	各5例以上、 合計20例以上	
2−3−1保存修復治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。		症例
2−3−2歯周治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。		症例
2−3−3歯内治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。		症例
2−3−4補綴治療適応の診断、治療計画の立案、治療ができる。		症例
2−3−5歯科治療に必要な麻酔が施行できる。		症例
		合計　　症例
2−4総合的な歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施。	合計20例以上	
2−4−1　1口腔単位で総合的な歯科疾患の診断ができる。		症例
2−4−2　1口腔単位で総合的な歯科診療計画が立案できる。		症例
2−4−3　1口腔単位で総合的な歯科治療が行える。		症例
		合計　　症例
2−5基礎疾患を有する患者の歯科疾患の診断、治療計画の立案と実施	合計10例以上	
2−5−1基礎疾患を十分に理解し総合的な歯科疾患の診断ができる。		症例
2−5−2基礎疾患の問題点を視野にいれた総合的な歯科診療計画が立案できる。		症例
2−5−3基礎疾患の問題点に対応した総合的な歯科治療が行える。		症例
		合計　　症例

Ⅲ基礎口腔外科		
3−1口腔外科基本診察法	合計15例以上	
3−1−1口腔内および口腔外科領域の観察ができ、記載できる。		症例
3−1−2口腔外科疾患の診断手順が理解でき実践できる。		症例
3−1−3口腔外科疾患や手技に関連した局所解剖を理解している。		症例
3−1−4全身観察（頚部リンパ節の触診を含む）ができ、問題点の記載ができる。		症例
3−2口腔外科基本臨床検査	合計15例以上	
3−2−1口腔外科疾患に必要な歯科用X線検査を選択・実行できる。		症例
3−2−2パノラマX線検査で口腔外科疾患を読影できる。		症例
3−2−3CT検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−4MRI検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−5細菌学的検査，薬剤感受性検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−6細胞診（擦過。穿刺），病理組織検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−7血算，白血球分画がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−8血液型判定，交叉適合試験がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−9心電図がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−10動脈血ガス分析がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−11血液生化学検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−12肺機能検査（スパイロメトリー）がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−13一般尿検査がオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−2−14PET 検査、Ga・骨シンチグラムがオーダーでき所見を理解できる。		症例
3−3基本的な口腔外科疾患の診断と治療	合計15例以上	

計画		
3−3−1診断の手順から確定診断まで総合的に実施ができる。		症例
3−3−2治療計画の立案ができ、手術に関する説明と同意が行える。		症例
3−3−3治療法（必要器具、手技、投薬等）を理解している。		症例
3−3−4治療における合併症を理解している。		症例
3−3−5合併症に対する対策を理解している。		症例
3−4口腔外科基本手技	合計15例以上	
3−4−1口腔外科処置に適した麻酔が実施できる。		症例
3−4−2下顎孔伝達麻酔が実施できる。		症例
3−4−3普通抜歯,簡単な埋伏抜歯が実施できる。		症例
3−4−4炎症の切開排膿処置が実施できる。		症例
3−4−5顎間固定術、歯牙固定術、脱臼整復術を実施（器具準備を含む）できる。		症例
3−4−6口腔内外の縫合法を実施（器具準備を含む）できる。		症例
3−4−7各種止血法を実施できる。		症例
3−4−8注射（皮内，皮下，筋肉，点滴，静脈確保）が実施できる。		症例
3−4−9採血が実施できる。		症例
3−4−10合併症の対策が施行できる。		症例
3−4−11小嚢胞の手術（粘液嚢胞を含む）ができる。		症例
		合計　　症例
3−5基本的な口腔外科疾患の管理法	合計5症例	
3−5−1基本的な口腔外科疾患の臨床病態および予後観察と、それらの主観的客観的評価が適切にできる。		症例
3−5−2全身の管理、口腔機能の改善，回復（嚥下訓練、開口訓練などのリハビリ指導等）ができる。		症例
3−5−3薬物の作用，副作用，相互作用について理解し，薬物療法（抗菌薬，解熱剤）ができる。		症例

		合計　　症例
3−6多くの口腔外科疾患を経験する	1症例以上	
3−6−1見学例、実施経験例を記載する。		症例
		合計　　症例
Ⅳ麻酔科研修		
4−1医科麻酔を経験する	医科麻酔研修 3か月	
4−1−1一般的な術前診察と全身状態評価ができる。		症例
4−1−2麻酔器の取扱いができる。		症例
4−1−3麻酔前準備ができる。		症例
4−1−4末梢静脈確保ができる。		症例
4−1−5気道確保(用手またはエアウェイを用いたもの)ができる。		症例
4−1−6用手人工換気ができる。		症例
4−1−7気管吸引ができる。		症例
4−1−8基本的なモニタリング機器の装着と操作ができる。		症例
4−1−9モニタリング項目の値の解釈と麻酔中の全身状態の把握ができる。		症例
4−1−10麻酔後の全身状態の把握ができる。		症例
4−1−11術後酸素療法ができる。		症例
		期間　　か月 合計　　症例
Ⅴ救命救急科研修		
5−1救命救急を経験する	救命救急科研修 1か月	
5−1−1バイタルサインのチェックができる。（JCS による意識評価を含む。）		
5−1−2頭頸部・胸部・腹部・四肢の視診、触診ができる。		
5−1−3胸部・腹部の聴診ができる。		
5−1−4打鍵器などを用いた神経学的診察ができる。		
5−1−5用手気道確保ができる。		
5−1−6経口・経鼻エアウエイの挿入ができる。		

5−1−7BVM(バッグ・バルブ・マスク)による用手人工呼吸ができる。		
5−1−8麻酔器、マスクによる用手人工呼吸ができる。		
5−1−9気管挿管下の用手人工呼吸ができる。		
5−1−10経胸壁用手心臓マッサーシができる。		
5−1−11AED による除細動(VF/脈無しVT）ができる。		
5−1−12末梢静脈路確保ができる。		
5−1−13非侵襲的モニターの装着及び検査(SPO2、ECG、血圧計など）ができる。		
5−1−14動脈・静脈採血ができる。		
5−1−15ACLS の VF/VT、PEA、心停止のアルゴリズムで使用する薬剤の使用ができる。		
5−1−16救命救急センター、救急部における救急輸液の実地ができる。		
5−1−17創洗浄、創縫合(歯科口腔外科領域のもの）ができる。		
5−1−18チームカンファレンスへの参加ができる。		
		期間:　　か月
Ⅵ形成外科研修		
6−1形成外科治療を経験する	形成外科研修 （2週間）	
6−1−1頻度の高い疾患や外傷の診断と治療を理解する。		
6−1−2顔面を主にした体表面の外傷（挫創、擦過傷など）の処置の仕方 技術（麻酔、消毒、洗浄、縫合など）を修得する。		
6−1−3基本的な手術器具の名称、使用方法が理解できる。		
6−1−4瘢痕の経過と時期に応じた治療法が理解できる。		
6−1−5ケロイドと肥厚性瘢痕の鑑別診断ができる。		

6−1−6顔面のレントゲン写真、CT の読影の仕方、特に骨折の診断法が理解できる。		
6−1−7病変、外傷部、術前、術中、術後とその経過の写真撮影方法が実施できる。		
6−1−8手術を要する場合、術式の選択や麻酔方法の決定の仕方が理解できる。		
6−1−9術後のスキンケアーを実践できる。		
6−1−10遊離植皮、有茎皮弁、遊離皮弁の手技の違いと長短所が理解できる。		
		期間:　　週間
Ⅶインプラント・顎関節症・睡眠時無呼吸		
7−1インプラントについて理解する	合計1例以上 (手術補助)	
7−1−1基本概念と基本的な適応症を理解している。		症例
7−1−2診断から補綴までの治療の流れと手技を理解している。		症例
7−1−3模型実習(手術手技)を行う。		症例
7−1−4手術の補助ができる。		症例
		合計　　症例
7−2顎関節症について理解する	合計 1 例以上	
7−2−1症状と検査法、症型分類、予後評価ができる。		症例
7−2−2MRIの撮影条件の指示と読影ができる。		症例
7−2−3スプリントの制作・調整実習を行う。		症例
7−2−4スプリント療法を理解し実践できる。		症例
7−2−5関節洗浄療法について理解している。		症例
		合計　　症例
7−3睡眠時無呼吸について理解する	合計1例以上	

7−3−1病態と検査法、治療法の基礎を理解している。		症例
7−3−2病態を把握できる		症例
7−3−3他科へのコンサルトができる。		症例
7−3−4OA の作製手順と方法を理解し作成できる。		症例
7−3−5治療効果を評価できる。		症例
		合計　　症例

愛知医科大学病院　歯科医師臨床研修プログラム

研修医氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

経験疾患数　　年　　月

実施件数 / 見学例数＋実施例数　　保存・補鐵の実施例数は患者数でなく施行数。見学例数は患者数。